

## 市立舞鶴市民病院にて「ボツリヌス療法」を実施しています

(ボツリヌス療法について)

脳卒中の後遺症として、手足の麻痺は多く見られる症状ですが、その中でも手足の麻痺と共にあらわれることが多い運動障害の筋肉つっぱり（痙縮）に対する新しい治療法として近年「ボツリヌス療法」が行われています。

(ボツリヌス療法とは)

ボツリヌス菌によって産生されるボツリヌス毒素を筋肉内に注射することで、筋肉に命令を出す神経に作用し、その筋肉の緊張をやわらげることができます。この効果を利用して手足の筋肉つっぱり（痙縮）を柔らかく、動かしやすくすることにより日常生活を向上させることが目的です。

(効果の一例)

筋緊張・身体の上めつける様な痛みの改善、リハビリテーションや歩行・着がえがしやすいなど介護者の負担軽減・・・

(対象部位症状)

- ・上肢痙縮
- ・下肢痙縮

(痙縮とは筋肉が緊張しすぎて手足が動きにくかったり、勝手に動いてしまう状態)



【治療のステップ】

ボツリヌス注射の効果は、注射後 2～3 日目から徐々にあらわれ、通常 3～4 ヶ月持続し、徐々に消失します

- STEP 1** 診察 ボツリヌス療法を受けられるかどうか、診察によって判断します。  
目標設定 「何に困っているのか」「何をできるようにになりたいか」といった点について、ボツリヌス療法を実施する医師と相談し、治療の計画を立てます。
- STEP 2** 初回治療 つっぱりのある筋肉に薬を注射します。
- STEP 3** 入院 注射後 2～3 日目から入院して、リハビリを実施します。
- STEP 4** 退院 2 週間で退院していただきます。  
次回診察・治療について、日時等を相談します。
- STEP 5** 2 回目の治療 経過観察を経て効果が弱まってきたら、2 回目の治療を行います。  
以降は経過観察と治療を繰り返します。

- その他
- ・治療費について：保険適応による支払いです。（福祉医療・高額療養 制度も利用可能）
  - ・入院を希望せず治療のみをご希望の方も一度、ご相談下さい。

相談・お問い合わせは・・・

市立舞鶴市民病院 地域医療連携室 電話 0773-60-9022

## 外来開設理由について

脳卒中の患者は現在約 150 万人と言われ、毎年 25 万人以上が新たに発症していると推測されています（日本脳卒中協会）。寝たきりになる原因の一位であり、3割近くを占めています。そして、社会の高齢化によりその患者はますます増加することが予想されています。

医学の進歩により、脳卒中の発作が起きても命を落とさずにくむ人は多くなっています。しかし、まったく後遺症なく生活できるまで回復する人は 20%にすぎず、後遺症のために生活に介助を要する人も少なくないのが現状です。後遺症の主な原因となるのが痙縮と呼ばれる筋肉の緊張が高まった状態です。2010 年 10 月にわが国で脳卒中後などの上下肢痙縮にたいしてボツリヌス療法が承認され、脳卒中治療ガイドライン 2009 でボツリヌス治療は痙縮に対する治療法としてエビデンスレベル gradeA とされています（最も効果があるということです）。その治療効果は数年経過した症例にも有効との報告もあります（日本医事新報、2013、75-80）。

市立舞鶴市民病院にてボツリヌス療法に特化した外来を行うことにより、京都府北部において脳卒中後の痙縮に困っている方々に日常生活の改善と介助者の負担の軽減をめざします。



平成 29 年 4 月

市立舞鶴市民病院 院長 井上 重洋